

仏壇のろうそく・線香の取扱いにご注意を！

倒れた線香が落下して座布団が燃えたり、燭台にサイズの合わないろうそくをさしたため、ろうそくが傾いて近くにある可燃物に灯火が着火するなどの事故が発生しています。

ろうそく、線香などによる火災は1年を通して起きていますが、特に夏のお盆時期は、ろうそく、線香を使用する機会が増えてきます。

実際に管内で発生した事例を確認して火災を起こさないように注意しましょう！

ろうそく・線香からの出火

火災事例1

仏壇のろうそくの火を点けたまま外出したところ、仏壇の下棚板付近に並べられていた紙製のお札にろうそくの灯火が着火した。



火災事例2

家人の留守中に、火の点いた線香が座布団上に落下し、無炎燃焼をした。

火災事例3

家人が仏間の手入れをしていたところ、ろうそくの灯火が着衣に着火した。



対策

- 1 ろうそくを設置する場合は、正規の燭台を使用する。
- 2 灯火が転倒しないよう設置場所には最新の注意を払う。
- 3 ろうそくを神棚、仏壇に設置する場合は、炎の高さを考慮しながら、周囲に供えているものなどの距離に注意を払う。
- 4 風のあたる場所では使用しない。
- 5 外出する場合には必ず火を消す。



以上のように、灯火を正しく使用することによって快適な生活を送ることができます。火を点けたまま「部屋を出ない」・「外出しない」・「寝ない」という大前提をしっかり守るとともに「住宅用火災警報器」を設置しましょう！

